

校長室  
通信

# 校長室便り

令和6年12月20日

第2号

熊本県立熊本工業高等学校

## はじめに

夏休み前に第1号を発行しましたが、第2号が冬休み前の発行となってしまう大変申し訳なく思っております。

夏休み期間中の本校野球部の甲子園出場に際しましては、保護者の皆様には多大な協力をいただき心より感謝申し上げます。県予選を勝ち抜き甲子園という高校球児が憧れる舞台に立ち、強豪校相手に好試合を演じてくれたことは、本校の誇りです。

卒業生や県民の皆様から、元気・勇気をもたらした、また明日からの仕事が頑張れるなどの温かい言葉をいただく事ができました。また、300人以上の生徒が応援バスに乗って甲子園まで応援に駆けつけてくれ、さらには吹奏楽部も生徒を後押しする演奏をしてくれ、アルプススタンドが熊工一色となり、「熊工ここにあり」と示すことができました。



試合前の甲子園の様子

## 後期始業式校長講話

後期を迎えるに当たり私から全校生徒に以下の内容の話をしました。

- 大きな柱として、目標を立てて、自ら課題を見つけ目標を設定し、その解決に向けて何が必要なのかを考え、必要な取り組みを実践する。次にそれを実現するために小さく刻まれた目標を設定して欲しい。
- そして、うまくいかなかったことを次のステップに加味し、新たな取り組みを始めること。これを小さなステップで意識して行って欲しい。
- 評価も漠然と、「できなかった」、「失敗だった」で終わるのではなく、原因を探り、そして同じ失敗を繰り返さないようにどうすれば良いのかを考えて欲しい。確実に評価をすること。できていること、できていないことを仕分けし、できなかったことについて次のステップでどう克服していくのかを考えて欲しい。
- 新たな熊工として、「自ら考え自ら行動すること。」を常に話をしていますが、これに繋がるものと考えて欲しい。
- 自分の行動を振り返ること、そして改善していくこと。そして次の動きを自ら導きだし行動に移すことがとっても大切。気を抜けばあっという間に青春時代は過ぎていく。目標をしっかり持ちながら生活しよう。

このような内容で話をしています。後期のテーマと考えていますので、どうぞよろしく願います。

## 最近印象に残ったこと

---

11月10日(日)に行われたラグビーの全国大会(花園)県予選の九州学院と決勝戦でのことです。雨が降り止まない中、前半はほぼ互角で折り返し、後半を迎えました。開始直後は本校が有利にゲームを進めていましたが、時間が経つにつれトライを奪われるなど劣勢の中、選手達は一生懸命頑張っていました。その熊工生の懸命な姿に、スタンドに応援にきていた応援団や野球部を中心とする生徒全員が、「声で後押しを」というふつつつとした気持ちとなり、メガホンを持って立ち上がり大きな声を張り上げて応援を始めました。その光景を横で見ていた私は、熊工生の仲間への思い、いてもたってもいられず声援を送って鼓舞するという行動に鳥肌が立ち、本当にうれしい気持ちと、本校生の仲間を思うやさしい気持ちに感動を覚えました。

本校で大切にしている「母校愛」をしっかりと体現してくれていました。そして、仲間を思いやる気持ち、人を大切にする気持ち、これこそが「熊工」だと改めて実感することができました。今後とも、このような人材の育成に努めていきたいと考えております。

## 学校行事を振り返ってみて

---

### ○体育大会

昨年に引き続き入場者の制限をせずに実施することができました。約1ヶ月の練習の中で、生徒一人一人が大きく成長してくれました。また、3年生のリードのもと10科それぞれの団結が日々強くなっていく姿を私たち教職員も頼もしく感じました。当日の前半の目玉である熊工乱舞では、学校応援団のリードのもとに、全校生徒で「新サンライズ」を披露し、応援に駆けつけていただいた皆さんに熊工魂をお見せすることができました。

昨年に引き続き「陸の王者」材料技術科が優勝し、新人戦等の各種大会が重なり公欠者も多かった中でも力強さを見せてくれました。全校生徒で熊工の伝統である「体育大会」を見事に体現してくれました。



くまもとスポーツフォトコンテスト 高校生の部 最優秀賞

### ○熊工DAY

県下全域に案内し、どなたでも学校を見学していただく本企画も2年目となりました。教職員は授業やその準備があるため保護者の皆様に受付や警備、校舎の案内などをお願いしています。今回も60名を超える皆様にご協力を賜り感謝申し上げます。

本年度の来校者は約550名と昨年度とほぼ同数でした。授業に関する貴重な意見をいただいたり、部活動に対する興味・関心の高まりがあったりと一定の成果を得ております。次年度も同様に実施して参りますので多数の皆様のご参加とご協力をお願いします。

## ○熊工祭

今年度のテーマは「熊工パワー～あの子に届け、笑顔のホームラン～」として、各クラス、文化部が中心となって色々な催しを実施してくれました。1年生による壁新聞、3年生による食バザーの催しが行われました。一方、体育館では、吹奏楽部のふれあいコンサートをはじめ、個人またはグループの歌や演劇の特技自慢大会、筋肉自慢が集ったボディービルコンテストなどの感性豊かな生徒の発表に、生徒、保護者、地域の方々が集う盛況な行事となりました。



ふれあいコンサートの様子

## ○駅伝大会

保護者の皆様の協力の下、本年も学年ごとに実施することができました。一人一人が一生懸命に走り、各クラスが団結して最後まで応援する。持久力を上げるだけではなく、クラスの団結にも結びつく大会となりました。



駅伝大会の様子

## ○千葉工業大学との連携協定

NHKのニュースで取り上げられましたが、千葉工業大学と主に半導体に関する分野で下記のような4つの事項について連携・協議をすることになりました。

この連携は、千葉工業大学よりオファーをいただいたもので、九州の工業高校を代表する本校との連携協定を望まれ、本校にはない機器を用いた授業や高度な技術習得について助言等をいただきたいということで実現したものです。

- ① 教育・研究及び文化の発展に関すること
- ② 探求活動に関すること
- ③ 人材育成に関すること
- ④ その他連携の目的を達成するために必要と認められること

この4項目を元に、今後具体的な連携を進めていきたいと考えております。高校ではできないこと、できないものをこの連携で活かしていきたいと考えております。



連携協定式の様子

## ○命と友愛の日

本校では昨年度から、命の尊さについて思いを巡らせ、お互いに尊重し合うことの大切さについて考える日として、10月23日を「命と友愛の日」と定めています。今年度は熊本学園大学社会福祉学部の小山明日香准教授と学生5名を講師として招き、「自分と仲間を思いやる」というタイトルで全校生徒に対して講話をしていただきました。

高校生の悩みにまつわるデータを示しながら、周囲にSOSを出す大切さについて分かりやすくお話しいただきました。生徒から出されたSOSを、職員を含め周囲の大人が逃さずキャッチする感度も高めていかなくてはならないと改めて感じた次第です。



講話の様子

## おわりに

---

今回の発行が非常に遅れてしまったことを心よりお詫び申し上げます。

夏休み明けから12月まで学校行事も多い中、対外的にも新人大会や全国大会予選など、運動系・文化系・工業の専門系の各分野で行われ、生徒・職員にとっても大変忙しい時を過ごしました。

しかし、生徒の日々の成長に助けられています。熊工といえば挨拶、挨拶の熊工と言われていますが、校内ですれ違うたびに挨拶を交わしてくれることに心が穏やかになっています。

冬休みが明けると共通テスト、高校入試がスタートし、あっという間に学年末を迎えることとなります。お正月は家族との時間を大切に、学校の話がたくさんしていただきたいと思います。

そして、しっかりと充電をして新年度に備えて欲しいと願っています。